

東北学院大学×大塚製薬

食事・免疫についての講座実施

体育会学生に「体調管理のコツ」講義



大塚製薬による食事や免疫に関する講座が十二月十八日、土樋キャンパスで体育会学生を対象に開催された。

講師を務めた大塚製薬の瀬口菜々子氏は、体調管理で重要な免疫力が睡眠不足や生活習慣の乱れ、栄養の偏りのほか、激しい運動でも低下すると話し、これを維持するポイントとして栄養補給や適度な運動、休養などを挙げた。注目すべき栄養素としてタンパク質とビタミンDを紹介した大塚氏は「タンパク質は筋肉形成だけでなく免疫細胞の素にもなり、ビタミンDはカルシウムの吸収以外に筋肉や免疫機能の維持にも寄与している。この栄養素をさまざまな食材を組み合わせて摂取することが大切だ。また、免疫機能の仕組みや免疫物質を増やす乳酸菌の話題にも触れ「免疫力を高めることでウイルスなどの感染リスクが低下する」と説明。学生たちに「体調管理の基本は食事、運動、睡眠。免疫力を低下させないための体調管理を行い、元気に冬を過ごす」と呼びかけた。

講座には体育会の三十七団体約八十人が参加し、時折メモを取りながら熱心に聞いていた。男子ラグロス部のマネージャー学生は「部員の体づくりの必要性を感じ、練習前後にタンパク質の摂取や軽食の管理などを始めたばかりだったのでとても興味深かった。最近体調不良が目立っており、今日の情報を日頃の取り組みに生かせるよう部内で発信していきたい」と語った。

今回の講座は、二〇一八年に学校法人東北学院と大塚製薬で締結した連携協定に基づき開催された。企画した学生課は、学生に栄養知識の不足が感じられることから今回の開催を大塚製薬に打診、今後は対象を全学生に広げることも検討している。

学生に栄養知識の情報を発信

十一月二十三日、情報処理学会・CDS/MBL/UBI研究会主催の「第九回学生スマートフォンアプリコンテスト」で、教養学部情報科学科の高橋秀幸ゼミナールに所属する学生チーム「公守(きみまもる)くん」(阿部真成斗さん、忌部湧馬さん、工藤智博さん、鈴木晴稀さん、針生有都さん)がアイディア賞を受賞した。

ゼミ表彰報告
高橋秀幸ゼミナールの学生チームが情報処理学会「スマホアプリコンテスト」でアイディア賞を受賞

十一月二十三日、情報処理学会・CDS/MBL/UBI研究会主催の「第九回学生スマートフォンアプリコンテスト」で、教養学部情報科学科の高橋秀幸ゼミナールに所属する学生チーム「公守(きみまもる)くん」(阿部真成斗さん、忌部湧馬さん、工藤智博さん、鈴木晴稀さん、針生有都さん)がアイディア賞を受賞した。

今回の受賞したアイディア賞は、最終審査会まで進んだ作品のうち完成度や新規性、プレゼンテーションの観点から優秀な作品に対して贈られるもので、コンテストの面白さや、実際にアプリケーションとして機能している点などが評価された。



経済学部 篠崎剛ゼミナールの学生が「第六十七回日本学生経済ゼミナール大会」で最優秀賞を受賞

十二月十二日、日本学生経済ゼミナール主催の「第六十七回日本学生経済ゼミナール大会」で、経済学部経済学科の篠崎剛ゼミナールに所属する学生チーム(尾川彩佳さん、鈴木紀恵子さん、淡路慎太さん)が最優秀賞を受賞した。同大会は全国の経済・経営・商学部の学生を対象とした学術大会で、討論部門とプレゼンテーション部門の二部門があり、学生チームはプレゼンテーション部門に参画し「老後の資産問題」をテーマに、日本の年金システムを持続可能性についてまとめた。

今回のプレゼンテーション部門ではエントリーした約八十チームのうち予選を勝ち抜いた十八チームが三つの分科会に分かれて本選に進み、各分科会で最優秀賞が選ばれた。また、二月二十八日に学生に対し学長表彰が行われ、表彰状と記念品が手渡された。

明治を代表する文豪の一人である島崎藤村が東北学院で教師を勤めた。藤村の詩集『若菜集』にある多くの詩が在仙時代に書かれたものとして知られている。そんな藤村と同じく明治期に活躍した詩人であり、東北学院で学んだ岩野泡鳴という人物がいます。

シリーズ 東北学院の偉人たち 第8回 岩野泡鳴 [いわの ほうめい] (1873-1920) 東北学院史資料センター

泡鳴は明治二十二年(1889年)に大阪府の泰西学院で生まれる。父は泰西学院の校長で、泡鳴もこの学院で学ぶ。泡鳴は、小説家としての泡鳴は一九〇九(明治四十二年)年に『耽溺』を発表し、主人公の視点からの自在な心情



吐露が高い評価を受け、作家としての地位を確立しました。しかしこの時期には権太で力二の生活は、一八九四(明治二十七年)年まで続き、仙台を「第二の故郷」と呼ぶ、ここの経験について「小生の思想には、在仙中の事件は抜き取り難き根を生じ居り候」と語られるほど生涯の思想の根底を決するものでした。

泡鳴は、小説家としての泡鳴は一九〇九(明治四十二年)年に『耽溺』を発表し、主人公の視点からの自在な心情を評しています。

十二月十一日、十二月十二日、日本政策学生会議(ISFJ)主催の「政策フォーラム2022」がオンラインで開催され、経済学部経済学科の白井大地ゼミナールと倉田洋ゼミナールに所属する学生チームがそれぞれ、分科会賞を受賞した。

白井大地ゼミナール、倉田洋ゼミナールの学生チームが日本政策フォーラム2022で分科会賞を受賞

「受賞したチームの研究テーマは、株式投資をする人が少ないという古くから知られている問題を、任んでいる住宅の広さを注目で検証するという他に例が見られない、学術的にも興味深い研究」と評価した。また倉田ゼミ所属の学生チーム(菊田大翔さん、小山瑞稀さん、本田太輝さん、渡邊重杜さん、渡辺結衣さん)は「自動車の部門のポートフォリオ最適化による現実的なCO2削減目標と補助金規模」をテーマに、身近に走るエコカーから着想を得て、現実的かつ長期的にCO2削減が期待できる政策を提案。受賞した学生は「ゼミの仲間から色々手厳しいコメントをもらったが、その穴を埋めることで内容がブラッシュアップされた今回の受賞につながったと感じ」と話し、倉田教授は「専門家の機会を自らつくる積極的な姿勢と、先生や専門家の意見を踏まえ具体的な政策を提案できる柔軟性と行動力が素晴らしい」と評価した。